

詩編 119 篇シリーズ その 2

119:25 私のたましいは、ちりに打ち伏しています。あなたのみことばのとおりに私を生かしてください。119:26 私は私の道を申し上げました。すると、あなたは、私に答えてくださいました。どうか、あなたのおきてを私に教えてください。119:27 あなたの戒めの道を私に悟らせてください。私が、あなたの奇しいわざに思いを潜めることができるようにしてください。119:28 私のたましいは悲しみのために涙を流しています。みことばのとおりに私を堅くささえてください。119:29 私から偽りの道を取り除いてください。あなたのみおしえのとおりに、私をあわれんでください。119:30 私は真実の道を選び取り、あなたのさばきを私の前に置きました。119:31 私は、あなたのさとしを堅く守ります。【主】よ。どうか私をはずかしめないでください。119:32 私はあなたの仰せの道を走ります。あなたが、私の心を広くしてくださるからです。119:33 【主】よ。あなたのおきての道を私に教えてください。そうすれば、私はそれを終わりまで守りましょう。119:34 私に悟りを与えてください。私はあなたのみおしえを守り、心を尽くしてそれを守ります。119:35 私に、あなたの仰せの道を踏み行かせてください。私はその道を喜んでいきますから。119:36 私の心をあなたのさとしに傾かせ、不正な利得に傾かないようにしてください。119:37 むなしいものを見ないように私の目をそらせ、あなたの道に私を生かしてください。119:38 あなたのことばを、あなたのしもべに果たし、あなたを恐れるようにしてください。119:39 私が恐れているそしりを取り去ってください。あなたのさばきはすぐれて良いからです。119:40 このとおり、私は、あなたの戒めを慕っています。どうかあなたの義によって、私を生かしてください。119:41 【主】よ。あなたの恵みと、あなたの救いとが、みことばのとおり、私にもたらされますように。119:42 こうして、私をそしる者に対して、私に答えさせてください。私はあなたのことばに信頼していますから。119:43 私の口から、真理のみことばを取り去ってしまわないでください。私は、あなたのさばきを待ち望んでいますから。119:44 こうして私は、あなたのみおしえをいつも、とこしえまでも、守りましょう。119:45 そうして私は広やかに歩いて行くでしょう。それは私が、あなたの戒めを求めているからです。119:46 私はまた、あなたのさとしを王たちの前で述べ、しかも私は恥を見ることはないでしょう。119:47 私は、あなたの仰せを喜びとします。それは私の愛するものです。119:48 私は私の愛するあなたの仰せに手を差し伸べ、あなたのおきてに思いを潜めましょう。

はじめに

先月、詩編 119 篇シリーズを始めました。

先月来られていないか、Youtube でもご覧になっていない方のために簡単に説明します。

詩編 119 篇を学ぶ理由は、それが神の御言葉、つまり聖書に 100% 焦点を当てているからです。この詩編は神の子どもたちの霊的生活の内にまで届くようにできています。

この詩編を人生に適用すれば、聖さにあつて成長することができ、従順な信仰の歩みにいつも伴う迫害や抑圧に対処できるようになります。

迫害にどのように対処するべきかを知っていることは、詩編 119 篇の教えでも重要な部分です。先月説明したように、詩編は 8 節ごとに分かれた合計 22 の段落からできています。

それぞれの段落がヘブライ語のアルファベットで始まっていて、暗誦を容易にするためにこのように構成されています。

先月学んだ 1-24 節からの適用は以下のことでした。

1. 非難されるところのない祝福された人生を送りたいなら、創造主と直接出会わなければなりません。それは唯一、神の子イエス・キリストを通してのみ可能です。イエスは、あなたと聖書の神の間の架け橋のような方です。
2. 永遠のいのちへの道に一度入れば、人生を導き、平安と喜びを与える助けが必要となります。御言葉、聖書からそれを得ることができます。神の聖霊があなたのたましいを生き返らせ、私たちの思いは私たちが住む文化や社会などではなく神の影響を受けます。
3. 聖書を読むにあたって、神に心を明け渡さなければなりません。それは、私たちが神のしもべだからです。しもべは主人が言うことを行うものです。自分たちの働きを神のためにするのではなく、神から出た働きを神のためにしているかどうかを確かにしなければなりません。そこには違いがあります！私たちが神のためにしようと決めることは、私たちがしたいこと、できることに基づいていることが多いですが、神から来る働きは神がするように召されていることで、その働きのために神は私たちを備え、力づけてくださいます。

今月は次の3つのヘブライ語のアルファベットと共に、考慮すべき3つのことを御言葉から学びます。

1. 「“Daleth”(ダレト) -詩編 119:25-32 節

この段落のタイトルは「打ちめされても打ち負かされない」です。

前の段落は、神の御言葉にある喜びのうちに終わりましたが、次の最初の節は、著者が非常に落ち込む様子から始まります。

私たちが神の祝福を楽しんでいる時にこそ、私たちのたましいの敵、悪魔が激しく攻撃するというのは聖書の真実として知られていることです。

物事がうまくいっている時、良い気分になっている時が、油断して霊的武具を脱いでしまう危険な時です。

エペソ 6:10-18 は、たましいの敵の攻撃から身を守る方法として霊的な武具を身に着けるよう教えています。

「6:10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。6:11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。6:12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。6:13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。6:14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、6:15 足には平和の福音の備えをはきなさい。6:16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。6:17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。6:18 すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」

著名なクリスチャン、アンドリュー・ボナー氏はこう言いました。

「戦いの前と同じほど、勝利の後も用心深くあるべきである。」

憂鬱で落ち込んでいた時、著者はどうすべきか知っていました。

祈ったのです。最初の段落で彼が何を祈ったのかが分かります。

彼は3つのことを祈りました。

まず、彼は神に、「私を生かしてください」と叫びます。

敵は彼を中傷し(23 節)、抑えつけ(61 節)、偽りを述べ(69 節)、苦しめ(83 節)、さげすみました(141 節)。

109 節では彼の命さえも脅かしました。

著者が、ちりの中の虫のような気持ちになったのも無理ありません。

けれども、クリスチャンがひどく最悪と思える状態の時こそ、神が共に歩んでくださり、神の最善をお与えになる時なのです。神は私たちが必要とする恵みをくださいます。

コリント第二 1:3-7 「1:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。1:4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができます。1:5 それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。1:6 もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。1:7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは、動くことはありません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めをもともにしていることを、私たちは知っているからです。」

著者が頻繁にこのように祈ったことは興味深いことです。

実はこの詩編の中でも 11 回祈っています。

神がその度に彼の祈りに応えたと分かるのは嬉しい限りです。

このヘブライ語の言葉は聖書の中でも頻繁に出てくるもので、ただいのちが守られることだけではなく、癒しと繁栄の意味も含んでいます。

例話

もし来年の春、桜の時期に大阪城に行けば、無数の桜が満開になっているのを目にするでしょう。澄みきった青空を背にふわふわの美しい桜の花を見るのは絶景です。けれども同じ公園に冬訪れてみると、木は丸裸になり、死んだように、意気消沈して見えます。

私たちのクリスチャン生活も、このような時があります。憂鬱になり落ち込めば、回復を必要とします。

神は私たちの人生の内側を美しくできるお方ですから、外側も魅力的なのです。

神が私たちに回復させるとき、イエスの美しさが私たちの人生に輝きます。

神は私たちに回復させることができますが、私たちも神に叫び祈らなければなりません。神は応えてくださいます。このポイントを離れる前に 1 つ注意しておきたいのは、著者が「あなたのみことばとおりに私を生かしてください。」と言っている点です。

もしも神による回復を望むなら、確かに聖書の御言葉に従っていきましょう。

神は、私たちの心に偽りがあるかどうか、人生に罪があるかどうかをご存知です。

2 番目に、26-27 節で著者は「教え」が必要だと認識しているのが分かります。

彼は 26 節で「あなたのおきてを私に教えてください。」と言っています。

英語のニューリビング訳(NLT)は「命令」という言葉を使っています。

クリスチャンとして「この問題からどうやって抜け出せるんだろう」と問うことがよくあるものです。けれども、「この経験から何を学べるんだろう？」と問うべきです。

私たちが困難を経験し、それに対処していくためには神の知恵を必要とします。神の知恵を得なければ、苦難の時を無駄にし、その経験から何も得ることはありません。

ヤコブ 1:2-4 「1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」

著者は、人生という学びの場でまだ学ぶことがあることを知っており、それを見逃したくなかったのです。

彼は今自分に起こっていることを神に話しました。そして神は彼に知恵と強さを与えることで祈りにお応えになりました。

私たちも同じようにすることができます。著者の問題と私たちの問題に違いはありません。信仰によって、私たちも人生の戦いの中で神の祝福を期待することができるのです！

3 番目に、28-30 節で著者は「私を強めてください」と祈っています。

ここで理解すべきことは、著者は、自分が神と御言葉に忠実であるがゆえに苦しみを経験していると明確にしていることです。

109 節では彼が命の危険をおかしてまで主に従っていることが分かります。彼は敵に対して怒って彼らを滅ぼしてくださいと神に祈ることはしませんでした。むしろ迫害する者のために涙し、彼らを神に委ねたのです。

(115&136 節参照)

著者が必要としたのはただ、神のために生き続け、耳を傾けない者たちに御言葉を告げ知らせるための強さでした。

ただ神の恵みだけが必要だと気付いたのです。

コリント第二 12:8-10 「12:8 このことについては、これを私から去らせてくださるようと、三度も主に願いました。12:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。12:10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」

敵の抑圧に遭っている時、私たちのありがちな最初の反応は「敵を変えてください」と祈ることでしょう。けれども最善の反応は神が私たちを変えてくださり、私たちが敵の上に勝利を得ることができるように祈ることです。そのような祈りができる時、私たちは確実にクリスチャンとして成長し、成熟するのです。

4 つ目に、31-32 節で、著者は「私を守ってください」と祈ります。

これは非常に重要な祈りです。

著者は神の御名に恥をもたらしたくありませんでした。彼はどうしたでしょう？

信仰によって、彼はその状況を神に引き渡したのです。

誰かが私たちについて偽りを言い、誹謗中傷する時、私たちは自分たちを守り、なんとか仕返しする賢い手だてを考えようとする傾向にあります。

もしそうするなら、それは自分が神の働きをしようとするからです正しいことではありません。

神ご自身が私たちを守ってくださいます。

神の御言葉と約束にしがみついたら、神は神の働きを神の時に、神の知恵によって行ってくださいます。

神への信仰は、自分の知恵や強さだけに縛られた狭い場所から、神が私たちの代わりに働いてくださる大きく開けた場所へと私たちを連れだしてくれます。そうして私たちは、神が神の方法で神の時に神の働きをしてくださることに安らぐことができるのです。

この段落の締めくくりです。難しい状況にある時、落ち込む時、物事がうまくいっていない時には、神に祈り求めなければなりません。

神があなたを生かして（回復して）くださり、試練の中で何かを教えてください、強め、守ってくださるように祈りましょう。神の御言葉、聖書は、神が御言葉を尊重されると教えていますから、神は実際にあなたのためにそうしてくださいます。

2. 「He(へー)」-詩編 119 篇 33-40 節

タイトルは「終わり良し」です。

良いスタートをきったクリスチャン生活は良い終わりをむかえるべきですが、いつもそうとは限りません。

神に従って人生を歩み始めたけれども、悲しいことにそれが続かず残念な人生の終わりを迎えた人が聖書に多く出てきます。

創世記には、アブラハムの末の弟、**ロト**が良い歩みを始めながらもソドムの近くに住むことを選択し罪に陥ってしまったとあります。

ロトはソドムが滅ぼされる前に助けられましたが、彼の妻は振り返ってしまい、塩の柱になってしまいました。（創世記 19:26）

サムソンの歩き出しは良く、長寿のナジル人となるべく神に献身しました。

そして神によって**超自然的な力**を与えられました。

けれども彼は誤った選択をし、結果的にある女に彼の力の秘密を明かして力を失ってしまいます。それが捕らえられ死ぬことに繋がりました。

サウル王の始まりも良かったものの、プライドと権力が彼を支配してしまいます。最終的に彼は戦いで負傷し、捕まって拷問されることを避けるべく自ら命を絶ちました。（サムエル第一 31:4）

新約聖書では、**デマス**は良いスタートをきったのに、イエスとその働きよりも世と世俗的な喜びを愛したためにパウロを捨ててしまいました。（テモテ第二 4 :

10)

この段落で著者は、良い形で終わる一貫した人生のために必要な要素を示しています。クリスチャン生活をしっかり生き、良い形で終えるための 5 つの励ましです。

まず、「学ぶこと」（33-34 節）です。

著者は「主よ教えてください」と始めています。

この叫びは、教養として神や御言葉を理解するためだけのことではなく、もっと深いものです。

たましいを照らし、自分の心が神の愛するものを愛せるようにしたいのです。

素晴らしく力強い神のご性質とその働きを理解したいのです。

皆さんも、親友のことよりも神をより知るようになってください。

私が 35 年以上前にスコットランドのエディンバラにある聖書学院に行った時に、学院長が最初の集まりでこう言いました。

「この学院には、聖書や関連テーマの素晴らしい教えがありますが、皆さんがこの 2 年間でしなければいけない最重要事項は、神を深く、親密に知り、神を 100%信頼するようになることです。」

これは非常に素晴らしいアドバイスで、私と妻のウェンディはその聖書学院に居た 2 年間で確かに神を知るようになったのです。

ダニエル 11:32b にはこうあります。

「自分の神を知る人たちは、堅く立って事を行う。」

神の御言葉を知っているだけでは十分ではありません。神を親密に知って、人生における神の愛と心遣いを体験するのです。

次に著者は、良い人生を生き、良い終わりを迎える助けとなるのは従順であると言っています (35 節)。

この従順は、奴隷が主人からの罰を逃れようとするような従順とは違います。

子どもが両親の喜ぶのを見たいと楽しみにするようなものです。

それは神の御心を、心から行うことなのです。

詩編 40:8 「40:8 わが神。私はみこころを行うことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」

神の真理を知りたければ、神の御心に喜んで従わなければなりません。

3 つ目の励まし：神にあって楽しみを見出す (36-37 節)

この節は、私たちの心や思いは、この世の物質的な富や楽しみにではなく神の真理に目を向けるべきであることを思い出させてくれます。

アブラハムは素晴らしい町を見据えてよい終わりを迎えましたが、ソドムに目を向けたロトの終わりは悲惨でした。

世の物に集中しては、神のうちに楽しみを見出すことはできません。

神と御言葉に焦点を合わせ、神の御心を熱望すれば、神は私たちがこの人生で必要なものをお与えになります。

それは私たちが欲しいものとは限りませんが、神に楽しみを見出し続けるには必要なものです。

詩編 37:4 「37:4 【主】をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」

神の思いに私たちの心を注ぐなら、神は私たちが望むものをお与えになります。私たちが求めることが、神が私たちのために臨むものになるのです。

良い終わりを迎えるための 4 つ目の励ましは、「神を恐れること」です (38-39 節)。

人への恐れは、束縛と挫折へと導きます (箴言 29:25)。

けれども神への恐れは、私たちが人生で経験し得る全ての恐れを克服します。

著者は敵を恐れてはいませんでした。彼は神の約束に信頼していたのです。

彼は神の力と知恵を知っており、神の約束が信頼でき、神は決して彼を失望させることがないと分かっていたのです。

神はあなたのことも失望させません。

最終的に本当に重要なのは、私たちが神に約束することではなく、神が私たちのために約束されることなのです。
神はいつでも、私たちが失敗する時にさえ、約束をもたらしてください。

最後の励ましは 40 節です。良い終わりにしたければ、**神の真理を慕い求め**なければなりませんと著者は語ります。

私たちが何かを切望する時、それが起こることを忍耐強く待ちます。

多くのクリスチャンが今、イエスの再臨を心待ちにしています。

いつかそれはやってきますが、それまでは神の御言葉から糧を得ましょう。

神の御言葉は**蜜、パン、乳、そして堅い食べ物**であると聖書は語ります。

神にあって、そして御心を通して満たされましょう。

今日礼拝が終わってから玉造駅のマクドナルドでお昼ご飯を食べても、午後 3 時にはもうお腹がすくでしょう。

けれどもその代わりに、駅までの道中にあるカレー屋さんへ行って、大きな皿に盛られたカレーライスをお好みのトッピングで食べれば、月曜日まで何も食べなくてもいいくらいになります。

神の御心とはそのようなものです。読んで信じ、人生に適用していくならば、神が私たちの心とたましいを満たしますから、もうこの世のものを求めることはないのです。

3. 今日の最後のヘブライ文字：「Waw (ヴァヴ)」-歩み、語る (41-48 節)

この段落では、いくつかの声を聞くことができます。

神が私たちに語りかける声、敵から私たちへの声、神に、そして神のために語りかける私たちのいのちの声、そして最後に神の民が他者に語る声です。

41 節は私たちに語りかける神の声で始まります。

毎日聖書を読んでいれば、神は御言葉を通して必ず私たちに語り掛けてくださっています。

私は今、エレミヤ書を通して読んでいます。この書は非常に憂鬱な書ですが、私の状況に神が直接的に語り掛けてくださることもあります。そうです、神は御言葉を通して語られるのです。

一番の問題は、**「私たちが神に耳を傾けているか？」**ということです。

42 節は、サタンも私たちに語り掛けることを思い出させます。

著者は、彼について偽りを述べ、中傷し、命まで脅かす敵に抑圧されていました。サタンに攻撃されるとき、その攻撃に対する私たちのおもだった武器は、御霊の剣である神の御言葉です。(エペソ 6:17)

神の真理だけが悪の嘘を静めることができます。

マタイ 4 章 1-11 節でサタンがイエスを攻撃した時、イエスはこの方法をとられました。イエスはサタンから三度試みに会いましたが、その度に

「...と書いてある」と言って旧約聖書の御言葉から直接引用しました。

罪を遠ざけるためだけではなく、私たちが虐げる者や、イエスの何をなぜ信じるのかと問う者に答えられるようにするために、私たちは心の内に御言葉を必要とします。

ペテロ第一 3:15-17 「3:15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。3:16 ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るで

しょう。3:17 もし、神のみこころなら、善を行って苦しみを受けるのが、悪を行って苦しみを受けるよりよいのです。」

43 節は神の民が神に語りかける必要があると思ひ起こさせます。

この節で著者は神に語りかけています。

著者は神が御言葉を通して約束してくださったことを取り除いてしまわないか心配しています。

そして神に、あなたの御言葉は尊重されるべきですと語りかけます。

この当時は、神の御言葉は口頭で人から人へ伝えられて学ぶものでした。ですから人々の思いはその御言葉の真理に注がれていました。

ですから聖書から聖句を暗誦することは重要です。一度神の御言葉を覚えれば、聖霊がそれを必要な時に私たちの思いの中にもたらしてくださるからです。今の私たちは本になった聖書を持てるのですから、そこから暗誦できる機会を無駄にしないでください。

44-45 節には、信仰の最高の守りとなるのは、変えられた人生である、とあります。

神と御言葉に従順であることと、他者の必要のための愛ある働きは、私たちの信仰を他の何よりも一番表すものです。

44 節で、著者は神の教えをどこしえまで守ると言っています。

もう罪に縛られていないのだから、囚われることのない自由の中を歩むことができるのです。

罪の力から解放し、神との自由を楽しむことができるようにしてくださったのはイエス・キリストです。

ヨハネ 8:31 「8:31 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。8:32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

真理に生きることで、私たちはイエスに従う自由を与えられ、私たちの変えられた人生は世への証となります。

最後に、神の民は他者に語らなければなりません (46-48 節)。

神と御言葉を真に愛するならば、御言葉を伝えることを恥ずかしいとは思いません。たとえ相手が王や政府の上層部の人であっても。

この節について勉強していた時、どうやって自分の信仰を英国エリザベス女王、首相のボリス・ジョンソンに伝えられるだろうかと考えました。

最善の方法は、私の書いた本「Personal testimonies of Faith Stories (信仰物語～わたしの証～(仮題)」を送ることだと思いました。

この本の中にある福音は明確で、神が長年私と妻のウェンディに真実であってくださったことが輝かしい日の陽の光のように輝いています。

もしも返事が来たら皆さんにも教えましょう！

時に私たちは、神が機会を与えてくれた相手に大胆に信仰を分かちあわなければなりません。人生において神に誠実で、神の証人となれるよう、神が私たちを助けてくださいますように。

アーメン